

ガンビアへの出張を実施しました。

ガンビアに対する我が国の支援は、給水、食糧、農業、安全、人材育成など幅広い分野に及んでいます。地方の給水事業は既に1992年から開始して、今は第4期を実施中です。これが完工すれば、全国5州（北岸州、西部州、下流州、中流州、上流州）の約3万人への給水を確保したことになります。食糧援助はほぼ毎年実施しており、国民の食糧確保、栄養状況の改善に役立っています。かかる援助による見返り資金で、農業機材の調達も行い、農業振興を通じて中長期的観点からの食糧確保にも貢献しています。

バロウ大統領を表敬訪問して、両国の協力関係を確認し、今後の発展について話し合いました。日本の支援には感謝し、今後の発展にも期待が表明されました。タンガラ外務大臣との面談でも、両国間の協力実績を高く評価すると共に、今後の協力を約束しました。

UNICEF と実施している「児童への栄養支援」プロジェクトの供与式を実施しました。このプロジェクトは、新型コロナウイルスに対する脆弱性を低減するため、国、州、地域レベルで、栄養失調児に栄養補給物資を供与するとともに、小児疾患に携わる医療従事者の能力強化に取り組むものです。

また、WFP を通じた「コロナ禍の影響を受けた脆弱層への食糧支援」の供与式に出席しました。このプロジェクトは、コロナ禍によって栄養価のある食料へのアクセスが急激に悪化した脆弱層に対し、栄養不良改善・予防の活動を行います。

ガンビア事務所は日本出身の津村所長が采配しています。

発展のために、安定と安全は必要不可欠です。IOM と連携して、従来よりガンビアの国境管理の強化をお手伝いしています。国境管理所の施設強化、コロナ禍の衛生対応の強化、人員の研修や訓練などを行ってきました。今回は、出入国の総合管理システムの設定、管理車両の配備を行い、これらの供与式を実施しました。永野 IOM ガンビア所長が活躍しています。

草の根・人間の安全保障無償資金協力の枠組みで、バンジュール市 C3G の医療設備拡充の支援を行ってきました。脆弱な医療体制を充実すべく、今回は癌検診と治療のための機材を供与しました。関係する医師の方々は、使命感を持って取り組んでおり、バンジュール市のみならず、国内他地域や近隣国の患者も受け入れています。

今後の協力として、タンガラ外務・国際協力・在外ガンビア人大臣と食糧援助（2.5億円）の署名を行いました。食糧及び栄養上のニーズのある人々に日本の政府米を供与することにより、新型コロナウイルスによるガンビア国民への影響が緩和され、ガンビアにおける食料安全保障の改善につながることが期待されます。

また、我が国は、ガンビアに名誉総領事を設置しており、代替わりで新任の名誉総領事を任命しました。タンガラ外務大臣の同席を得て、任命書の手交式を行いました。これからも、両国の関係強化、邦人保護などの業務を御願います。

なお、夏の東京オリンピックには、陸上、柔道及び競泳に計4名の選手が派遣されました。女子陸上では200メートルで14位となる成績を残しました。ホストタウンである守口市を選手が訪問するなどの交流も行われました。

これからもガンビアとの協力関係を発展させていきます。



（IOM 供与式）



（外務大臣署名式）



（WFP 供与式）

（了）